誌上行学講習会

高佐日煌上人

⑥は天上界。これもいささか別社会であり人間の立場からいけば、貴族、富豪の社会で、言葉の使い方からすでに違っている。いわゆる「ザーマス言葉」を使っています。家には自家用車があり女中を何人も使っている。別荘もある。というような金持の社会。今は貴族というのはなくなりましたが、皇族も大部整理されてわずかに天皇陛下の御兄弟だけが皇族として残っているだけでありますが、昔は皇族が多く、続いて華族もありました。支那の風習にしたがって、公、侯、伯、子、男、という大名の階級も残っていたものです。今日は新らしい制度で金持ちを貴族と呼んでおりますが庶民層とはいささか別に考へられております。ここまでが六道と言い、普通人間社会の層に入るわけであります。

⑦声聞界。これは学者、知識人の社会であります。私が大学生のころ永く学長をしておられた風間随学先生は、まさしくこの声聞界に住する人でありました。関東大震災のとき「ずい分東京は焼けたなあ」、二、三百円は損だらうか」等と平気で真剣な顔をして言うのであります。こういう方は全く金のかんじょうを知らないのであります。又有名な植物学者の牧野博士は日露戦争のあったことを知らない。明治三十七、八年の当時立派に生きていてそれを知らないというのですから驚いたことです。これらは全く別社会に居るということの証左でしょう。本当に学問の中に頭から全身で入れてしまって他を見ないという部類であります。

⑧縁覚界とは一つの悟りをもっている人。自分だけが悟りを開いたと思っている人。一種独特の人生観をもっているのであります。おおむねこの世の浮いたことは馬鹿げている。一人孤独な生活をする。極端な人は山中にこもって人間嫌いをはばからず口言する。都会の中でもそういう人は居ります。隣り近所と一切つき合いをしない。一人もくもくと生きている。変人、奇人、俗に変りものと称されるたぐいがそれであります。仏教的にはこれを孤高陰逸人と言っております。

⑨菩薩界。これは行道慈善人の社会でありまして、必ず現実に存在しています。とても情深い人が居りまして、新聞に可哀そうな記事が出ていますと、だまってお金を新聞社に送ったり、品物を送ったりするのを楽しみにしている人。人とつき合うのにまことに親切にふるまい、人の世話をするのを喜びとする人。これらは皆、菩薩界に住し生きる人達であります。ウイリアムサンダーホームを経営している沢田美喜さん等はまさに現代の菩薩というべき人であります。私も深く尊敬しております。大東亜戦争でたくさんの国際孤児が生まれましたが、これを収容して自ら親となって養育しておるのであります。これは有名な一例ですが、名の出ない事例を考えればおびただしくある筈であります。「渡る世間に鬼はない。捨てる鬼あれば救ける菩薩あり」で、必ずどこかにそういう菩薩行の「道」を生きる人があるのであります。

次号に続く